

# I 人事行政の運営状況

## 1 職員の任免及び職員数に関する状況

(1)採用者数 (平成24年4月1日付) (単位:人)

試験(検査)区分	合格者数	採用者数	内女性
一般行政職	67	64	17
総合土木職	14	13	2
建築職	2	2	0
化学職	2	2	1
農学職	6	5	0
林学職	2	2	0
水産職	2	2	0
学校事務職	7	7	1
警察事務職	14	9	5
小計	116	106	26
II種	0	0	0
III種	5	4	3
一般事務	5	4	3
土木	1	1	0
学校事務職	8	7	3
警察事務職	7	6	6
小計	21	18	12
教員	121	117	73
小学校教員	121	117	73
中学校教員	81	74	33
高等学校教員	78	73	29
特別支援学校教員	37	36	26
養護教員	7	7	7
寄宿舎指導教員	7	7	7
実習助手	9	9	5
小計	333	316	173
警察官	63	40	4
警察官A男性一般	63	40	4
警察官A女性一般	6	4	4
警察官A男性武道(柔道)	2	2	
警察官B男性	41	40	
警察官B女性	4	4	4
警察官(航空操縦士)	1	1	
小計	117	91	8
資格免許職等	4	4	1
医師	4	4	1
社会福祉士	3	2	2
精神保健相談員	1	1	0
獣医師	6	5	3
薬剤師	5	5	3
保健師	2	2	2
栄養士	1	1	1
臨床検査技師	1	1	1
看護師	9	9	7
専任教員	0	0	0
工業技術技師	1	1	0
文化財専門員	3	2	0
体育指導員	3	3	0
県立自然博物館学芸員	1	1	0
司書	1	1	1
学校栄養職員	2	1	1
小計	43	39	22
合計	630	570	241

(平成23年度:平成23年4月1日~平成24年3月31日)(単位:人)

試験(検査)区分	採用者数	内女性
一般行政職	49	14
総合土木職	5	0
建築職	2	0
機械職	1	0
化学職A	3	0
農学職	5	1
水産職	1	0
学校事務職	12	5
警察事務職	7	3
法医鑑識	1	1
化学職B	1	
建築職B	1	
小計	88	24
II種	0	0
III種	4	2
一般事務	4	2
土木	1	0
学校事務職	10	7
警察事務職	2	1
小計	17	10
教員	126	84
小学校教員	126	84
中学校教員	76	31
高等学校教員	74	27
特別支援学校教員	29	17
養護教員	3	3
寄宿舎指導教員	2	0
実習助手	5	3
小計	315	165
警察官	47	4
警察官A男性一般	47	4
警察官A女性一般	4	4
警察官A男性武道(柔道)	1	
警察官A男性武道(剣道)	3	
警察官B男性	29	
警察官B女性	3	3
小計	87	7
資格免許職等	4	1
医師	4	1
社会福祉士	1	0
臨床心理士	2	1
獣医師	5	1
薬剤師	4	1
看護師	3	2
保健師A	2	2
栄養士	1	0
臨床検査技師	1	1
工業技術技師	3	0
専任教員	5	5
県立近代美術館学芸員	1	1
司書	1	1
学校栄養職員	1	1
小計	34	17
合計	541	223

(2)退職者数 (平成23年度) (単位:人)

区分	合計	定年退職		勸奨退職	普通退職		その他			
		勤務延長後の退職	(定年前希望退職を含む)	在職期間の通算を伴う退職等	分限免職	懲戒免職	失職	死亡退職		
一般行政職	180	141		15	21	14		1		2
研究職	7	6			1					
医療職	15	4		3	8	5				
技能労務職	12	10		1	1	1				
教育職	455	226		163	54	36		6		6
警察職	135	77		10	45	29				3
合計	804	464	0	192	130	85	0	7	0	11

(注) 1 「普通退職」とは、定年退職及び勸奨退職のいずれの事由にも該当しないで離職する場合をいう。(例:自己都合による退職や、二以上の地方公共団体の職員としての身分を併有していたが一方の地方公共団体を離職した場合等)  
 2 「在職期間の通算を伴う退職等」とは、「普通退職」の要件に該当するもののうち、任命権者又はその委任を受けた者の要請に応じ、引き続いて他の地方公共団体、国等の職員となるため退職手当を支給されずに退職した場合や、二以上の地方公共団体の職員としての身分を併有していたが、一方の地方公共団体を離職した場合をいう。

## (3)再任用職員の採用・離職状況

(平成23年度)

(単位:人)

区分	合計		再任用職員数										合計		再任用職員の離職者数							
			常時勤務職員					短時間勤務職員							常時勤務職員	短時間勤務職員						
			任期更新	任期更新	任期更新	15時間30分以上 19時間22分30秒未満	19時間22分30秒以上 23時間15分未満	23時間15分以上 27時間7分30秒未満	7時間7分30秒以上 29時間3分45秒未満	29時間3分45秒以上 31時間以下	任期満了	任期満了										
一般行政職	155	88	3	3	152	88		1	1	151	87			53	36	1	52	36				
研究職	10	4			10	4				10	4			2	2		2	2				
医療職	16	10			16	10				16	10			5	4		5	4				
技能労務職	34	10	1	1	33	10							33	10	7	5	1	6	4			
教育職	34	21	34	21	0	0								10	0	10						
警察職	11	3	3	2	8	1				8	1			6	2	2	1	4	1			
合計	260	136	41	23	219	113	0	0	1	1	185	102	0	0	33	10	83	49	14	2	69	47

## (4)再任用職員の数

(平成24年4月1日現在)

(単位:人)

区分	合計		再任用職員数															
			常時勤務職員					短時間勤務職員										
			任期更新	任期更新	任期更新	15時間30分以上 19時間22分30秒未満	19時間22分30秒以上 23時間15分未満	23時間15分以上 27時間7分30秒未満	7時間7分30秒以上 29時間3分45秒未満	29時間3分45秒以上 31時間以下	任期更新	任期更新						
一般行政職	157	101	2	2	155	99		1	1	154	98							
研究職	10	10			10	10				10	10							
医療職	13	10			13	10				13	10							
技能労務職	32	27	1	1	31	27							31	27				
教育職	46	24	46	24	0	0												
警察職	16	5	2	1	14	4				14	4							
合計	274	177	51	27	223	150	0	0	1	1	191	122	0	0	31	27		

(5)部門別職員数の状況と主な増減理由

(平成24年4月1日現在)

(単位:人)

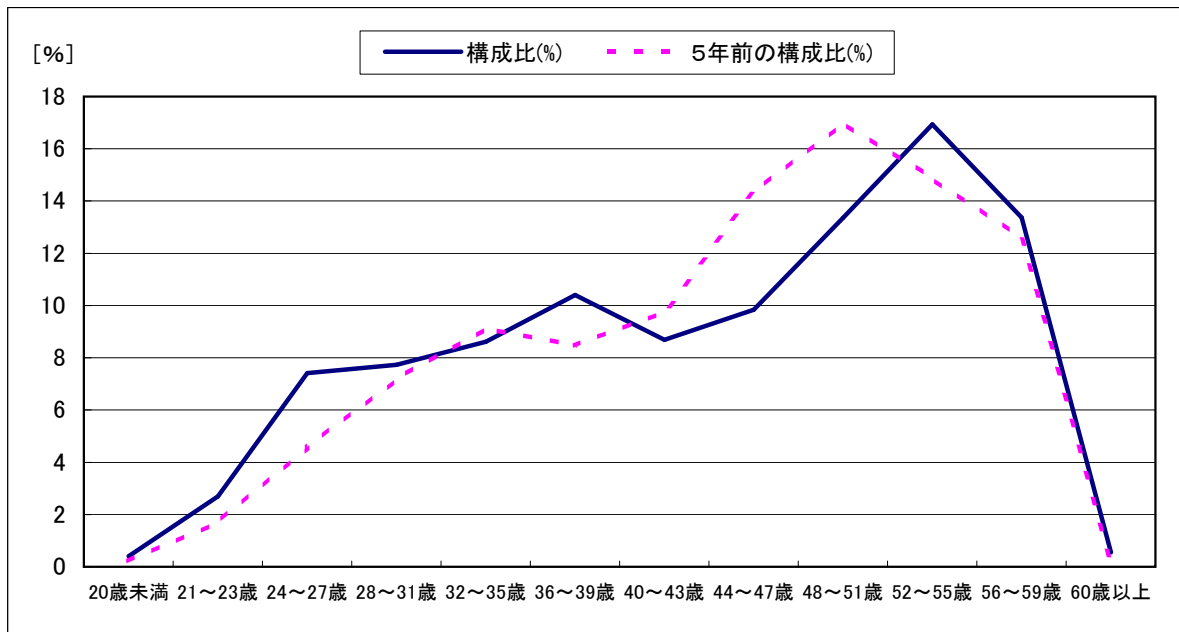
部門	区分	職員数		対前年増減数	主な増減理由等
		平成23年	平成24年		
普通会計部門	議会	32	33	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体準備業務</li> <li>・防災減災対策業務</li> <li>・紀伊半島大水害災害復旧・復興業務</li> <li>・全国植樹祭終了</li> <li>・試験研究機関組織再編</li> </ul>
	総務企画	708	733	25	
	税務	159	157	▲2	
	民生	306	306	0	
	衛生	461	462	1	
	労働	54	54	0	
	農林水産	807	772	▲35	
	商工	215	218	3	
	土木	804	807	3	
	小計	3,546	3,542	▲4	
教育部門	9,300	9,176	▲124		
警察部門	2,470	2,467	▲3		
小計	15,316	15,185	▲131	(参考:人口10万人当たり職員数 1,490.7 人)	
公営企業等	病院	153	160	7	
	その他	47	47	0	
	小計	200	207	7	
合計	15,516 [16,433]	15,392 [16,394]	▲124 [▲39]	(参考:人口10万人当たり職員数 1,511.0 人)	

(注) 1 職員数は一般職に属する職員であり、地方公務員の身分を保有する休職者、派遣職員などを含み、臨時職員を除く。

2 [ ]内は、条例定数の合計である。

(6)年齢別職員構成の状況

(平成24年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳~23歳	24歳~27歳	28歳~31歳	32歳~35歳	36歳~39歳	40歳~43歳	44歳~47歳	48歳~51歳	52歳~55歳	56歳~59歳	60歳以上	計
職員数	62人	415人	1,141人	1,191人	1,326人	1,602人	1,337人	1,515人	2,056人	2,606人	2,057人	84人	15,392人

(7) 職員数の推移

(単位:人・%)

部 門 \ 年 度	19年	20年	21年	22年	23年	24年	過去5年間 の増減数(率)
一般行政	3,788	3,687	3,605	3,552	3,546	3,542	▲ 246 (▲6.49%)
教育	9,798	9,657	9,536	9,414	9,300	9,176	▲ 622 (▲6.35%)
警察	2,442	2,459	2,453	2,476	2,470	2,467	25 (1.02%)
消防							( %)
普通会計計	16,028	15,803	15,594	15,442	15,316	15,185	▲ 843 (▲5.26%)
公営企業等会計計	300	283	265	246	200	207	▲ 93 (▲31.00%)
総合計	16,328	16,086	15,859	15,688	15,516	15,392	▲ 936 (▲5.73%)

## 2 職員の給与の状況

### (1) 総括

#### ア 人件費の状況(普通会計決算)

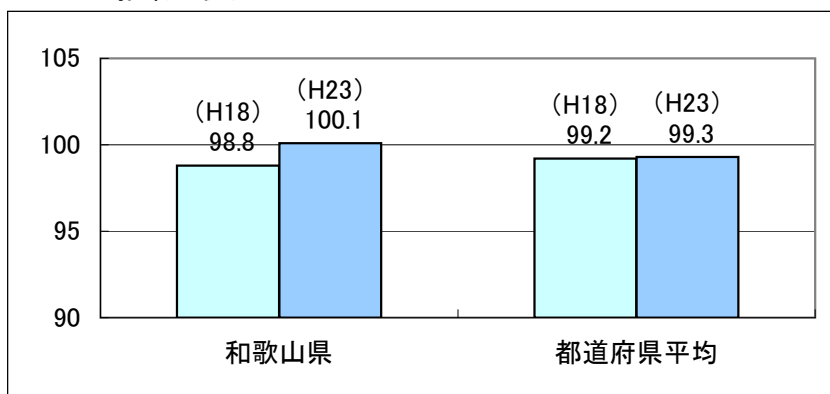
区分	住民基本台帳人口 (平成23年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 平成22年度の人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
23年度	1,018,668	545,821,368	4,271,193	151,852,465	27.8	28.1

#### イ 職員給与費の状況(普通会計決算)

区分	職員数 A	給 与			計 B	一人当たり給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当		
	人	千円	千円	千円	千円	千円
23年度	15,315	68,483,229	12,244,673	24,727,404	105,455,306	6,886

(注) 1 職員手当には退職手当を含まない。  
2 職員数は、平成23年4月1日現在の人数である。

#### ウ ラスパイレス指数の状況



(注) ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数である(平成23年4月1日現在)。

#### エ 給与改定の状況

##### (ア) 月例給

区 分	人事委員会の勧告				給 与 改 定 率
	民間給与 A	公務員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)	
	円	円	円	%	%
23年度	375,219	376,196	△ 977	0.26	0.26

(参考) 国 の 改 定 率
0.23

(注) 「民間給与」、「公務員給与」は、人事委員会勧告において公民の4月分の給与額をラスパイレス比較した平均給与月額である。

##### (イ) 特別給

区 分	人事委員会の勧告				年間支給月数
	民間の支給 割合 A	公務員の 支給月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)	
	月	月	月	月	月
23年度	3.97	3.95	0.02	0	3.95

(参考) 国 の 年 間 支 給 月 数
3.95

(注) 「民間の支給割合」は、民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合、「公務員の支給月数」は、期末手当及び勤勉手当の年間支給月数である。

(2) 一般行政職給料表の状況(平成24年4月1日現在)

(単位:千円)

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級
1号給の給料月額	135,600	185,800	222,900	261,900	289,200	320,600	366,200	413,000	464,600
最高号給の給料月額	243,700	307,800	354,700	388,300	400,600	422,600	456,200	478,200	537,700

(注) 給料月額は、給与抑制措置を行う前のものである。

(3) 職員の平均給与月額、初任給等の状況

ア 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況(平成24年4月1日現在)

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
一般行政職	42.6 歳	335,204 円	408,881 円
技能労務職	51.1 歳	338,495 円	380,790 円
うち用務員	57.8 歳	335,030 円	362,402 円
うち運転業務員	51.4 歳	349,368 円	415,158 円
うち守衛	49.0 歳	331,471 円	378,882 円
高等(特別支援・専修・各種)学校教育職	44.7 歳	387,257 円	434,127 円
小・中学校(幼稚園)教育職	46.1 歳	384,989 円	425,869 円
警察職	38.7 歳	318,275 円	432,507 円

(注) 1 「平均給料月額」とは、平成24年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などの諸手当の額を合計したものである。

3 平成24年度は、厳しい財政状況を踏まえ管理職の職員は給料の2%減額している。

イ 職員の初任給の状況(平成24年4月1日現在)

区分		和歌山県	国
一般行政職	大学卒	178,800 円	I種 181,200 円 II種 172,200 円
	高校卒	144,500 円	140,100 円
技能労務職	高校卒	141,900 円	—
高等学校教育職	大学卒	199,700 円	—
小・中学校教育職	大学卒	199,700 円	—
警察職	大学卒	197,200 円	203,100 円
	高校卒	164,700 円	158,100 円

ウ 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況(平成24年4月1日現在)

区分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一般行政職	大学卒	263,469 円	316,351 円	373,139 円
	高校卒	219,643 円	274,486 円	317,798 円
技能労務職	高校卒	該当者なし 円	241,700 円	268,975 円
高等学校教育職	大学卒	306,529 円	363,059 円	396,924 円
小・中学校教育職	大学卒	308,502 円	360,168 円	391,188 円
警察職	大学卒	284,951 円	341,473 円	372,750 円
	高校卒	248,253 円	304,679 円	351,635 円

(注) 平成24年度は、厳しい財政状況を踏まえ管理職の職員は給料の2%減額している。

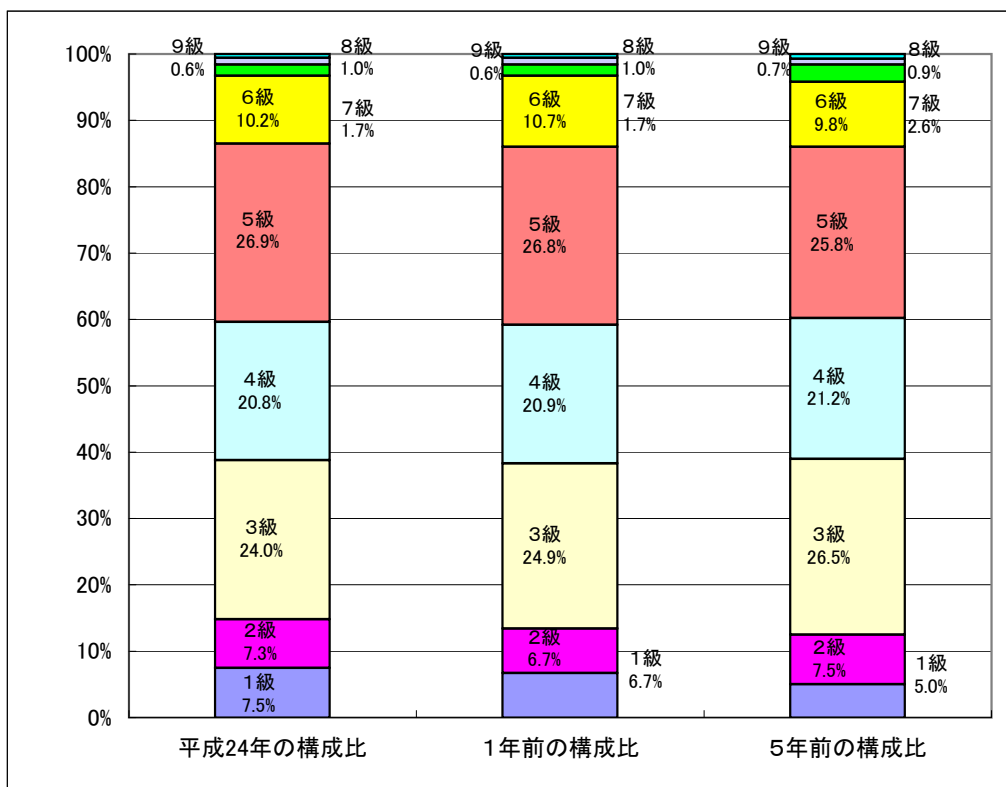
#### (4) 一般行政職の級別職員数等の状況

##### ア 一般行政職の級別職員数の状況(平成24年4月1日現在)

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比
9級	部長	23人	0.6%
8級	局長	40人	1.0%
7級	参事・課長	68人	1.7%
6級	課長・副課長	403人	10.2%
5級	課長補佐・班長・主任	1,062人	26.9%
4級	主査	823人	20.8%
3級	主査・副主査	950人	24.0%
2級	主事・技師	290人	7.3%
1級	主事・技師	298人	7.5%
計		3,957人	100.0%

(注) 1 和歌山県の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。

2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



## イ 昇給への勤務成績の反映状況

### 1 勤務成績の評定の実施状況

平成18年4月から全職員を対象とした業績・行動に基づく勤務実績評価(平成19年度から人事評価)を実施しています。

### 2 昇給への勤務成績の反映状況

全職員について、業績と行動の両要素を総合的に点数による絶対評価を実施し、5段階(A～E)に格付けし、実施しその評価結果(評語)に基づき、昇給区分(0～7号給)を決定しています。

平成24年4月1日の昇給の実績については次のとおりです。

(知事部局の一般行政職給料表適用者)

#### ア 特定職員

	昇給区分	上位(A・B)	標準(C)	下位(D・E)
55歳未満	昇給号数	5号給以上	3号給	2号給、昇給なし
	人員分布率	33.3%	66.7%	0.0%
55歳以上	昇給号数	3号給以上	2号給	1号給、昇給なし
	人員分布率	32.9%	67.1%	0.0%

#### イ 特定職員以外の職員

	昇給区分	上位(A・B)	標準(C)	下位(D・E)
55歳未満	昇給号数	5号給以上	4号給	2号給、昇給なし
	人員分布率	30.4%	69.5%	0.1%
55歳以上	昇給号数	3号給以上	2号給	1号給、昇給なし
	人員分布率	16.6%	83.4%	0.0%

※ 特定職員とは、行政職給料表7級以上の適用を受ける者をいいます。

※ 全ての期間を勤務していない者(病気休暇の取得、昇給判定期間の最初の日以後に採用された者等)、懲戒処分又は分限処分を受けた者で昇給区分が調整された者を除いています。

※ 人員分布率については、最高号給に到達した者を除いた割合です。

## (5) 職員の手当の状況

### ア 期末手当・勤勉手当

和歌山県		国	
1人当たり平均支給額(平成23年度)		—	
1,576 千円			
(平成23年度支給割合)		(平成23年度支給割合)	
期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
2.6 月分	1.35 月分	2.6 月分	1.35 月分
(1.45) 月分	(0.65) 月分	(1.45) 月分	(0.65) 月分
(加算措置の状況)		(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
・役職加算 5～20%		・役職加算 5～20%	
・管理職加算 10～20%		・管理職加算 10～25%	

(注) 1 ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

2 和歌山県の特定幹部職員(部・次長級)の支給割合については、期末手当2.2月分、勤勉手当1.75月分である。



【参考】勤勉手当への勤務実績の反映状況（一般行政職）

1 勤務成績の評定の実施状況  
平成17年6月勤勉手当分から、全職員を対象に評定期間（6月勤勉：12月2日～6月1日、12月勤勉：6月2日～12月1日）の勤務実績に基づき所属長からの内申により勤務成績を評定しています。

2 勤勉手当への勤務成績の反映状況  
全職員について、評定期間の勤務実績に基づき、所属長からの内申により成績率（特に優秀、優秀、良好（標準）、特に不良）を判定しています。  
平成23年12月支給の勤勉手当の実績は次のとおりです。  
(知事部局の一般行政職給料表適用者)

ア 特定幹部職員（次長級以上の職員）

	上位	標準	下位
成績率	114.5/100～99.5/100	84.5/100	70.5/100
人員分布率	17.3%	82.7%	0.0%

イ 特定幹部職員以外の職員

	上位	標準	下位
成績率	94.5/100～79.5/100	64/100	50.5/100
人員分布率	33.9%	66.0%	0.1%

イ 退職手当(平成24年4月1日現在)

和歌山県				国			
退職手当の基本額	(支給率)	自己都合	勸奨・定年	退職手当の基本額	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
	勤続20年	23.50 月分	30.55 月分		勤続20年	23.50 月分	30.55 月分
	勤続25年	33.50 月分	41.34 月分		勤続25年	33.50 月分	41.34 月分
	勤続35年	47.50 月分	59.28 月分		勤続35年	47.50 月分	59.28 月分
	最高限度額	59.28 月分	59.28 月分		最高限度額	59.28 月分	59.28 月分
その他の加算措置 定年前早期退職特例措置 (2%～20%)				その他の加算措置 定年前早期退職特例措置 (2%～20%)			
退職手当の調整額 在職した職務の級に応じた定額 (0円～50,000円) の60月分				退職手当の調整額 在職した職務の級に応じた定額 (0円～79,200円) の60月分			
(退職時特別昇給 なし)				(退職時特別昇給 なし)			
1人当たり平均支給額 315 千円 26,713 千円							

- (注) 1 退職手当の額は、退職手当の基本額(退職時の給料月額×支給率)に退職手当の調整額を加えて得た額である。  
2 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当(平成24年4月1日現在)

支給実績(平成23年度決算)		1,198,740 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)		143,665 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)
東京都特別区	18 %	33 人	18 %
東京都立川市	12 %	1 人	12 %
京都市	10 %	1 人	10 %
大阪市	15 %	8 人	15 %
吹田市	12 %	1 人	12 %
神戸市	10 %	2 人	10 %
和歌山市	3 %	6,492 人	3 %
橋本市	3 %	862 人	3 %
和歌山市及び橋本市以外の県内	0 %	7,939 人	0 %
医師・歯科医師	15 %	31 人	15 %
平均支給率		2.0 %	2.0 %

- (注) 「国の制度(支給率)」の欄の平均支給率は、支給対象職員に対し国の率で支給したと仮定した場合の加重平均の支給率である。

## エ 特殊勤務手当(平成24年4月1日現在)

支給実績(平成23年度決算)		732,950 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)		81,566 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(平成23年度)		52.9 %	
手当の種類(手当数)		46	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
税務手当	総務部総務管理局税務課又は県税事務所に勤務する職員	出張して県税の納入・納税義務者と直接接して行う課税調査、徴収	月額20,000円以内 (支給対象業務の従事日数により支給)
税外収入徴収手当	税外収入の事務に従事する職員	出張して、税外収入の滞納者と直接接して行う徴収	日額 360円
消防訓練指導手当	消防学校に勤務する職員	救急実技訓練、火災防御訓練、救助訓練等の指導	日額 850円
社会福祉業務手当	紀南児童相談所、子ども・女性・障害者相談センター又は振興局健康福祉部に勤務する職員	生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法又は売春防止法に定める保護その他の措置を必要とする者と面接して行う生活指導等	月額12,800円以内 (支給対象業務の従事日数により支給)
防疫業務等手当	こころの医療センター又は保健所に勤務する職員	感染症の患者の移送、医療又は感染症の防疫作業等	日額 330円
放射線取扱手当	エックス線装置等の取扱いに従事する職員	有害放射線の影響を受ける作業	日額 340円
精神保健業務手当	福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課、薬務課又は保健所に勤務する職員	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、麻薬及び向精神薬取締法に基づく調査(患者に直接接する場合に限る。)、診察の立会い、入院措置のための移送	日額 600円
病院看護業務等手当	こころの医療センターに勤務する看護師、准看護師	正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜(午後10時から翌日午前5時)において行われる看護等	深夜における勤務時間 深夜全部 6,800円 4時間以上 3,300円 2～4時間未満 2,900円 2時間未満 2,000円
し尿処理施設等検査手当	保健所又は環境衛生研究センターに勤務する職員	廃棄物の処理及び清掃に関する法律又は水質汚濁防止法に基づく供用開始後のし尿処理施設又は浄化槽の立入検査	日額 300円
と畜検査手当	保健所に勤務する獣医師	と畜場法に基づくと畜検査	日額 500円
災害応急作業等手当	振興局建設部に勤務する職員  東日本大震災に対処するための作業に従事した職員	重大な災害が発生した現場において行う巡回監視、応急作業、応急作業のための災害状況の調査等	日額 800円
		東京電力株式会社福島第一原子力発電所の敷地内において行う作業	原子炉建屋内 日額 40,000円 免震重要棟外 日額 20,000円 免震重要棟内 日額 5,000円
		警戒区域	屋外 日額 10,000円 屋内 日額 2,000円
		避難指示区域(計画的避難区域を含む。)	屋外 日額 5,000円 屋内 日額 1,000円
屋内避難指示区域	屋外 日額 2,500円		
特別環境作業従事手当	振興局地域振興部又は建設部に勤務する職員	命綱等の使用が必要とされる墜落の危険が著しい高低差10メートル以上かつ傾斜40度以上の急傾斜地で行う治山事業の現場における測量、調査、監督等	日額 300円
火薬類等災害調査手当	総務部危機管理局消防保安課又は振興局地域振興部に勤務する職員	火薬類取締法、高圧ガス保安法に基づく火薬類又は高圧ガスの製造施設等の災害調査	日額 750円
漁業取締手当	農林水産部水産局資源管理課に勤務する職員	漁業取締船に乗り組んで行う違反漁業の取締	日額 620円
種雄牛馬等取扱手当	畜産試験場に勤務する職員	種雄牛馬の精液の採取又は雌牛馬の受精卵採取、移植若しくは直腸検査	日額 300円

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
用地交渉手当	振興局建設部に勤務する職員	現地における公共用地の取得の交渉等	日額1,000円
有害物取扱手当	環境衛生研究センター又は工業技術センターに勤務する職員	毒物及び劇物取締法に規定する毒物及び劇物を使用して健康を害するおそれがあると認められる程度の試験、研究又は検査	日額 300円
動物保護手当	保健所に勤務する予防技術員	狂犬病予防法に基づく捕獲等	日額 600円
道路上作業手当	振興局建設部に勤務する職員	交通を遮断することなく行う道路の維持補修等	日額 500円
定時制課程等事務手当	定時制又は通信制の高等学校に勤務する事務職員	午後5時以降において、2時間以上勤務する定時制・通信制課程の事務業務	日額 120円
複式手当	小学校又は中学校教育職員	異なる2の学年を1学級として行う授業	日額 290円
準単級手当	小学校教育職員	異なる3以上の学年を1学級として行う授業	日額 350円
分校主任手当	小学校又は中学校教育職員のうち分校主任又はこれに相当する職にある者	分校主任等の担当業務	日額 300円
教育業務連絡指導手当	小学校、中学校又は県立学校に勤務する教諭のうち主任等に係る職務に従事した者	教務主任、学年主任、生活指導主任、進路指導主任、特別支援学級主任等の担当業務	日額 200円
兼務手当	高等学校教育職員	本務以外に定時制や他校の高等学校の通常課程、通信教育等を担当（兼務）する業務	時間2,780円
舎監手当	寄宿舎の舎監を兼ねる県立学校教育職員	正規の勤務時間以外における学生寮での寮生への生活指導等（2時間以上）	日額1,100円
教員特殊業務手当	教育職員	①非常災害時等の緊急業務 ②児童生徒引率指導業務	①(7) 児童生徒の保護又は緊急の防災復旧業務 日額6,400円 (イ) 児童生徒の負傷疾病に伴う救急業務及び緊急補導 日額6,000円 ②(7) 修学旅行、公式試合等で泊を伴うもの 日額3,400円 (イ) 部活動で休日等に行うもの 日額2,400円
私服作業手当	生活安全、刑事及び警備部門の業務に従事する警察職員	犯罪の予防若しくは捜査又は被疑者の逮捕等の業務	日額 560円（国内） 日額1,100円（国外）
警ら用自動車乗務手当	地域部門の業務に従事する警察職員	警ら用無線自動車を運転して行う犯罪の予防、捜査その他取締警戒等の業務	日額 420円
交通警察業務手当	交通部門の業務に従事する警察職員	交通事故捜査、交通指導取締等の業務	(1)交通事故捜査・横間 日額 560円（昼間） 日額 840円（夜間） 日額 840円（昼間・高速上） 日額 1,260円（夜間・高速上） (2)交通取締用自動二輪 日額 560円（白バイ） (3)上記以外 日額 310円 日額 460円（高速上）
警ら手当	駐在所、交番等に勤務する警察職員	犯罪予防のための警らの業務	日額 340円
鑑識業務手当	犯罪鑑識の業務に従事する警察職員	指紋、手口若しくは写真又は理化学、法医学若しくは銃器弾薬類の知識を利用して行う犯罪鑑識の業務	日額 280円（現場以外） 日額 560円（現場）

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
死体取扱手当	死体を取り扱う業務に従事する警察職員	死体の検視・検証及び解剖の補助の業務	(1) 検視・検証 1 体 1,600円 (2) 検視・検証(損傷著しい死体) 1 体 3,200円 (3) 検視・検証(検視官・刑事調査官) 1 体 3,200円 (4) 解剖補助 1 体 3,200円
留置管理手当	留置業務に従事する警察職員	留置人の看守業務又は被疑者等の護送業務	日額 320円
夜間特殊業務手当	交替制勤務に服する警察職員	正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜(22時から5時まで)において行われる業務	(1) 深夜の全部を含む勤務 1 回 1,100円 (2) 深夜の一部を含む勤務 1 回 730円 (3) 深夜の一部を含む勤務(2時間未満) 1 回 410円
爆発物処理等手当	爆発物等の処理に従事する警察職員	爆発物又はその疑いのある物件の処理、火薬類の製造施設等の災害調査の業務	(1) 爆発物、特殊危険物質等処理 1 件 5,200円 (2) 特殊危険物質による被害の危険がある区域での作業 日額 250円 (3) 火薬類の製造施設の災害調査 日額 750円
救難救助手当	救難救助の業務に従事する警察職員	断がい、激流等の著しく危険な場所での救難救助の業務	1 回 470円
緊急呼出手当	生活安全、刑事、警備及び交通部門の業務に従事する警察職員	突発的に発生した事件事故の処理作業のため、正規の勤務時間以外の時間に呼出を受け夜間(21時から5時まで)において行う業務	1 回 1,240円
潜水手当	潜水の業務に従事する警察職員	潜水器具を着用して行う、証拠品若しくは遺体の捜索又は人命救助等のための潜水業務	1 時間 400円
航空手当	警察航空隊の業務に従事する警察職員	航空機の操縦及び航空機に搭乗して行う整備、捜索等の業務	(1) 航空機の操縦 1 時間 5,100円 (2) 搭乗して行う警察活動 1 時間 1,900円 (3) 搭乗して行う整備業務 1 時間 2,200円 (4) 捜索・救難救助のための降下 日額加算 870円
災害応急手当	重大な災害が発生した箇所又はその周辺において行う災害警備、遭難救助、鑑識活動等の作業に従事する警察職員	異常な自然現象又は大規模な火事等の事故により重大な災害が発生した箇所又は周辺で行う災害警備、遭難救助、鑑識活動等の業務	日額 840円 (警戒区域等危険地域840円加算)
	東日本大震災に対処するための作業に従事した職員	東京電力株式会社福島第一原子力発電所の敷地内において行う作業	原子炉建屋内 日額 40,000円 免震重要棟外 日額 20,000円 免震重要棟内 日額 5,000円
		警戒区域	屋外 日額 10,000円 屋内 日額 2,000円
		避難指示区域(計画的避難区域を含む。)	屋外 日額 5,000円 屋内 日額 1,000円
屋内避難指示区域	屋外 日額 2,500円		
警護等手当	警備部門の業務に従事する警察職員	天皇若しくは皇族の身辺警衛又は内閣総理大臣等の身辺警護の業務	(1) 天皇、皇后、皇太子、皇太子妃文仁親王、悠仁親王の身辺警衛 日額 1,150円 (2) 上記以外の皇族、内閣総理大臣等の身辺警護 日額 640円

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
銃器犯罪捜査手当	刑事部門の業務に従事する警察職員	防弾装備を着装し、武器を携帯して行う銃器犯罪捜査等の業務	(1) 銃器使用犯罪現場での犯人逮捕 日額 1,640円 (2) 銃器使用犯人逮捕 日額 1,100円 (3) 銃器所持犯人逮捕 日額 1,100円 (4) (1)の業務に付随する直近警戒 日額 1,100円 (5) (2)の業務に付随する直近警戒 日額 820円 (6) 暴力団事務所等の直近警戒 日額 820円

#### オ 時間外勤務手当

支給実績(平成23年度決算)	2,681,515 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)	411 千円
支給実績(平成22年度決算)	2,377,222 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(平成22年度決算)	350 千円

#### カ その他の手当(平成24年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(平成23年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)
扶養手当	1 配偶者 13,000円 2 配偶者以外の扶養親族 6,500円 (そのうち1人については、配偶者がいない場合 11,000円) 3 満16歳から満22歳までの子 5,000円加算	同じ		1,932,457 千円	242,985 円
住居手当	1 住居を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている職員(借家) 最高27,000円 2 自宅を所有している職員(自宅) 3,200円	異なる	2 自宅なし	902,637 千円	113,212 円
初任給調整手当	医学等に関する専門知識を必要とし、かつ採用による欠員の補充が困難な職に採用された職員に採用から35年以内の期間支給(採用から1年経過するごとに額を減じて支給) 医師・歯科医師 最高支給月額 410,900円	異なる	21年以上について、国と異なる支給額を適用	115,401 千円	37,223 円
通勤手当	通勤距離が片道 2*以上で、交通機関を利用し、又は交通用具を使用して通勤している職員 1 交通機関 限度額55,000円 2 交通用具 (1) 二輪 2,000~24,500円 (2) 四輪 2,000~44,300円	異なる	2(2) 四輪 2,000~24,500円	1,750,786 千円	131,787 円

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (平成23年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (平成23年度決算)
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い転居し、やむを得ない事情により配偶者と別居し単身で生活することを常況とする職員（異動前の住居から異動直後の公署に通勤することが困難であること。） 23,000円＋加算額（6,000～45,000円、職員の住居と配偶者の住居との交通距離が100*以上の場合に加算）	同じ		110,154 千円	374,672 円
特地勤務手当	交通至難な地その他生活の不便な地域に在勤する職員に対して支給 1 級地 4,000円/月 2 級地 7,000円/月 3 級地 10,000円/月	異なる	給料及び扶養手当の合計額に一定割合を乗じて得た額を支給 1 級地 4% 2 級地 8% 3 級地 12%	7,428 千円	75,792 円
へき地手当	へき地学校に勤務する教職員に給料及び扶養手当の月額合計額に級別に応じた支給割合を乗じて得た額 3 級地 8% 2 級地 6% 1 級地 4% 準ずる学校 2%			100,924 千円	203,475 円
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員が勤務した場合に支給 一般の宿日直 4,200円 機器等の監視、管理等のための当直 5,100円 福祉施設等の生活介助等のための当直 5,900円 医師当直 20,000円 年末年始期間は、100分の150を乗じて得た額	異なる	年末年始期間の支給額	357,211 千円	214,284 円
管理職員特別勤務手当	管理職手当支給対象職員が臨時又は緊急の必要等により週休日等に勤務した場合に支給 6 時間以下 6,000～12,000円 6 時間超 9,000～18,000円	同じ		8,334 千円	40,067 円
夜勤手当	正規の勤務時間として午後10時から翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給 1 時間当たりの給与額×0.25×時間数	同じ		195,125 千円	61,554 円

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (平成23年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (平成23年度決算)
休日勤務手当	祝日法による休日等において正規の勤務時間中に勤務した職員に支給 1時間当たりの給与額×1.35×時間数(年未年始は、1時間当たりの給与額×1.5×時間数)	異なる	年未年始の支給割合	583,718 千円	181,110 円
管理職手当	管理又は監督の地位にある職員に職務の級及び支給区分に応じて定額を支給 (55,000～75,700円)	同じ		1,124,042 千円	709,175 円
寒冷地手当	寒冷地に在職する職員に支給 (11月～翌年3月) 1 世帯主である職員 扶養親族あり 17,800円 扶養親族なし 10,200円 2 その他の職員 7,360円	同じ		2,786 千円	65,198 円
義務教育等教員特別手当	小中学校、県立学校に勤務する教育職員に級号給に応じて3,900～15,900円を支給			600,150 千円	71,515 円
定時制通信教育手当	定時制・通信教育に従事する校長及び教員に給料の5%(管理職手当受給者は4%)を支給			48,013 千円	274,362 円
産業教育手当	農業又は工業に関する科目の授業及び実習を担当する教員に給料の5%(定時制通信教育手当受給者は3%)を支給			45,228 千円	245,805 円
農林漁業普及指導手当	普及指導員が現地において直接農林漁業者に技術及び普及指導を行ったときに支給 日額800円 (給料月額8%の範囲内)			4,195 千円	54,483 円
特定任期付職員業績手当	特定任期付職員のうち、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対し支給 給料月額に相当する額	同じ		707 千円	706,580 円

(6) 特別職の報酬等の状況(平成24年4月1日現在)

区分	給料	月額	等
給料	知事	1,137,400 円	(1,210,000)円
	副知事	893,000 円	(950,000)円
報酬	議長	921,500 円	(950,000)円
	副議長	785,700 円	(810,000)円
	議員	746,900 円	(770,000)円
期末手当	知事	(23年度支給割合)	
	副知事	2.95 月分	
	議長	(23年度支給割合)	
	副議長	2.95 月分	
退職手当	知事	(算定方式)	(支給時期)
	副知事	(1期の手当額)	(任期毎)
	知事	121万円×在職月数×0.7	40,656,000
	副知事	95万円×在職月数×0.5	22,800,000

(注) 1 厳しい財政状況を踏まえ、24年度は知事・副知事の給料を6%、議長・副議長・議員の報酬を3%減額しています。また、給料及び報酬の( )内は、減額措置を行う前の金額である。

2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

(7) 公営企業職員の状況

ア 工業用水道事業

(ア) 職員給与費の状況

a 決算

区分	総費用 A	純損益又は実 質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 22年度の総費用に占 める職員給与費比率
年度	千円	千円	千円	%	%
23	505,365	166,173	159,049	31.5	32.4

区分	職員数 A	給 与 費				1人当たり給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	
年度	人	千円	千円	千円	千円	千円
23	21	80,837	18,544	30,024	129,405	6,162

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。  
2 職員数は平成24年3月31日現在の人数である。

(イ) 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況(平成24年4月1日現在)

平均年齢	基本給	平均月収額
42.9 歳	368,273 円	533,051 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

(ウ) 職員の手当の状況

a 期末手当・勤勉手当

1人当たり平均支給額(平成23年度)	
1,429 千円	
(平成23年度支給割合)	
期末手当	勤勉手当
2.6 月分	1.35 月分
(1.45) 月分	(0.65) 月分
(加算措置の状況)	
職制上の段階、職務の級等による加算措置	
・役職加算率	5~20%
・管理職加算率	10~20%

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

b 退職手当(平成24年4月1日現在)

退職 手 当 の 基 本 額	(支給率)	自己都合	勤奨・定年
勤続20年	23.50 月分	29.375 月分	
勤続25年	33.50 月分	39.75 月分	
勤続35年	47.50 月分	57.00 月分	
最高限度額	59.28 月分	57.00 月分	
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%)		
退職手当の調整額	在職した職務の級に応じた定額 (0円~50,000円)の60月分		
(退職時特別昇給	なし		
1人当たり平均支給額	— 千円	— 千円	

- (注) 1 退職手当の額は、退職手当の基本額(退職時の給料月額×支給率)に退職手当の調整額を加えて得た額である。  
2 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成21~23年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

c 地域手当(平成24年4月1日現在)

支給実績(平成23年度決算)		1,771 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)		136,220 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)
和歌山市	3 %	8 人	3 %
和歌山市及び橋本市以外の県内	0 %	10(1) 人	0 %

(注) ( )内は再任用職員の数です。



d 特殊勤務手当(平成24年4月1日現在)

支給実績(平成23年度決算)		3 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)		700 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(平成23年度)		19.0 %	
手当の種類(手当数)		3	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
特別環境作業従事手当	公営企業課、工業用水道管理センターに勤務する職員	①地上10m以上の危険箇所にて行う工業用水施設の管理業務 ②非常に狭く崩落の危険がある、又は水道管の破裂等特別な危険の生じる恐れのある下水道内において調査又は検査	① 日額 300円 ② 日額 500円
災害応急作業等手当	公営企業課、工業用水道管理センターに勤務する職員	重大な災害が発生した現場(工業用水道の取水口及びびすい道)において行う巡回監視、応急作業のための災害状況の調査等	日額 800円
用地交渉手当	公営企業課、工業用水道管理センターに勤務する職員	現地における公共用地の取得の交渉の業務	日額 1,000円

e 時間外勤務手当

支給実績(平成23年度決算)	2,667 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)	148 千円
支給実績(平成22年度決算)	1,412 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(平成22年度決算)	78 千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

f その他の手当(平成24年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(平成23年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)
扶養手当	1 配偶者 13,000円 2 配偶者以外の扶養親族 6,500円 3 配偶者のない職員の扶養親族のうち1人 11,000円 4 満16歳から満22歳までの子 5,000円加算	同じ		4,827 千円	301,688 円
住居手当	1 住居を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている職員(借家) 最高27,000円 2 自宅を所有している職員(自宅) 3,200円	異なる	2 自宅なし	1,522 千円	95,125 円
通勤手当	通勤距離が片道2 <sup>km</sup> 以上で、交通機関を利用し、又は交通用具を使用して通勤している職員 1 交通機関 限度額55,000円 2 交通用具 (1)二輪 2,000~24,500円 (2)四輪 2,000~44,300円	異なる	2(2) 四輪 2,000~24,500円	2,862 千円	136,280 円
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い転居し、やむを得ない事情により配偶者と別居し単身で生活することを常況とする職員(異動前の住居から異動直後の公署に通勤することがこんなんであること。) 23,000円+加算額(6,000~45,000円、職員の住居と配偶者の住居との交通距離が100 <sup>m</sup> 以上の場合に加算)	同じ		290 千円	145,000 円

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (平成23年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 (平成23年度決算)
管理職手当	管理又は監督の地位にある職員に職務の級及び支給区分に応じて定額を支給 (55,000～75,700円)	同じ		2,378 千円	792,800 円
夜勤手当	正規の勤務時間として午後10時から翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給 1時間当たりの給与額×0.25×時間数	同じ		21 千円	2,296 円

## イ 土地造成事業

### (ア) 職員給与費の状況

#### a 決算

区分	総費用 A	純損益又は実 質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 22年度の総費用に占 める職員給与費比率
年度	千円	千円	千円	%	%
23	8,547,440	▲ 7,998,385	15,306	0.2	0.7

区分	職員数 A	給 与 費			一人当たり給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当 計 B	
年度	人	千円	千円	千円	千円
23	2	8,016	1,236	2,997	6,125

(注) 1 職員手当には退職手当を含まない。

2 職員数は平成24年3月31日現在の人数である。

### (イ) 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況(平成24年4月1日現在)

平均年齢	基本給	平均月収額
44.7 歳	380,760 円	535,024 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

### (ウ) 職員の手当の状況

#### a 期末手当・勤勉手当

1人当たり平均支給額(平成23年度)		1,499 千円
(平成23年度支給割合)		
期末手当	勤勉手当	
2.6 月分	1.35 月分	
(1.45) 月分	(0.65) 月分	
(加算措置の状況)		
職制上の段階、職務の級等による加算措置		
・役職加算	5~20%	
・管理職加算	10~20%	

(注) ( )内は、再任用職員に係る支給割合である。

#### b 退職手当(平成24年4月1日現在)

退職 手 当 の 基 本 額	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
	勤続20年	23.50 月分	29.375 月分
勤続25年	33.50 月分	39.75 月分	
勤続35年	47.50 月分	57.00 月分	
最高限度額	59.28 月分	57.00 月分	
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 (2%~20%)		
退職手当の調整額	在職した職務の級に応じた定額 (0円~50,000円)の60月分		
(退職時特別昇給)			
1人当たり平均支給額	— 千円	— 千円	

(注) 1 退職手当の額は、退職手当の基本額(退職時の給料月額×支給率)に退職手当の調整額を加えて得た額である。

2 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

c 地域手当(平成24年4月1日現在)

支給実績(平成23年度決算)		254 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)		126,992 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)
和歌山市	3 %	2 人	3 %

d 特殊勤務手当(平成24年4月1日現在)

支給実績(平成23年度決算)		千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)		円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(平成23年度)		%	
手当の種類(手当数)			
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価

e 時間外勤務手当

支給実績(平成23年度決算)	308 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)	154 千円
支給実績(平成22年度決算)	43 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(平成22年度決算)	22 千円

(注) 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

f その他の手当(平成24年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(平成23年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額(平成23年度決算)
扶養手当	1 配偶者 13,000円 2 配偶者以外の扶養親族 6,500円 3 配偶者のない職員の扶養親族のうち1人 11,000円 4 満16歳から満22歳までの子 5,000円加算	同じ		450 千円	225,000 円
住居手当	1 住居を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている職員(借家) 最高27,000円 2 自宅を所有している職員(自宅) 3,200円	異なる	2 自宅なし	151 千円	75,400 円
通勤手当	通勤距離が片道2*以上で、交通機関を利用し、あるいは交通用具を使用して通勤している職員 1 交通機関 限度額55,000円 2 交通用具 (1) 二輪 2,000~24,500円 (2) 四輪 2,000~44,300円	異なる	2 (2) 四輪 2,000~24,500円	67 千円	33,450 円



4 職員の分限及び懲戒処分の状況

(1)分限処分者数(23年度)

(単位:人)

処分の種類 処分事由・任命権者		降任		免職		休職		降給		合計		失職
(1)勤務成績が良くない場合	知事部局					/	/	/	/	0	[0]	/
	教育委員会					/	/	/	/	0	[0]	/
	警察本部					/	/	/	/	0	[0]	/
	小計	0	[0]	0	[0]	/	/	/	/	0	[0]	/
(2)心身の故障の場合	知事部局					77	[26]	/	/	77	[26]	/
	教育委員会					97	[97]	/	/	97	[97]	/
	警察本部					41	[14]	/	/	41	[14]	/
	小計	0	[0]	0	[0]	215	[137]	/	/	215	[137]	/
(3)職に必要な適格性を欠く場合	知事部局					/	/	/	/	0	[0]	/
	教育委員会					/	/	/	/	0	[0]	/
	警察本部					/	/	/	/	0	[0]	/
	小計	0	[0]	0	[0]	/	/	/	/	0	[0]	/
(4)職制・定数の改廃・予算の減少により廃職・過員を生じた場合	知事部局					/	/	/	/	0	[0]	/
	教育委員会					/	/	/	/	0	[0]	/
	警察本部					/	/	/	/	0	[0]	/
	小計	0	[0]	0	[0]	/	/	/	/	0	[0]	/
(5)刑事事件に関し起訴された場合	知事部局	/	/	/	/	/	/	/	/	0	[0]	/
	教育委員会	/	/	/	/	/	/	/	/	0	[0]	/
	警察本部	/	/	/	/	/	/	/	/	0	[0]	/
	小計	/	/	/	/	0	[0]	/	/	0	[0]	/
(6)条例で定める事由による場合	知事部局	/	/	/	/	/	/	/	/	0	[0]	/
	教育委員会	/	/	/	/	/	/	/	/	0	[0]	/
	警察本部	/	/	/	/	/	/	/	/	0	[0]	/
	小計	/	/	/	/	0	[0]	0	[0]	0	[0]	/
(7)合計((1)~(6)の計)	知事部局	0	[0]	0	[0]	77	[26]	0	[0]	77	[26]	/
	教育委員会	0	[0]	0	[0]	97	[97]	0	[0]	97	[97]	/
	警察本部	0	[0]	0	[0]	41	[14]	0	[0]	41	[14]	/
	合計	0	[0]	0	[0]	215	[137]	0	[0]	215	[137]	/
(8)地公法第28条第4項により失職した者	知事部局	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	教育委員会	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	警察本部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	小計	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
(9)地公法第28条第4項に基づく条例により失職しなかった者	知事部局	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	教育委員会	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	警察本部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	小計	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0

(注) 心身の故障による休職で処分期間を更新した場合等、同一の者が複数回の分限処分に付された場合は、その数を重複して計上している。

[ ]は、実人数を計上している。

(2)懲戒処分者数(23年度)

(単位:人)

処分の種類		戒告	減給	停職	免職	合計
処分事由・任命権者						
(1)給与・任用に関する不正 (諸給与の不正領得等)	知事部局					0
	教育委員会					0
	警察本部					0
	小計	0	0	0	0	0
(2)一般服務違反関係(信用 失墜行為・欠勤・勤務態度 の不良等)	知事部局	1				1
	教育委員会				3	3
	警察本部					0
	小計	1	0	0	3	4
(3)一般非行関係(金銭・異性 関係等の非行等)	知事部局			1		1
	教育委員会					0
	警察本部	1	1			2
	小計	1	1	1	0	3
(4)収賄等関係	知事部局				1	1
	教育委員会					0
	警察本部					0
	小計	0	0	0	1	1
(5)道路交通法違反	知事部局			1		1
	教育委員会		1		3	4
	警察本部	1				1
	小計	1	1	1	3	6
(6)監督責任	知事部局	2	5			7
	教育委員会					0
	警察本部					0
	小計	2	5	0	0	7
(7)合計((1)~(6)の計)	知事部局	3	5	2	1	11
	教育委員会	0	1	0	6	7
	警察本部	2	1	0	0	3
	合計	5	7	2	7	21

## 5 職員のサービスの状況

(1) 育児休業、育児のための部分休業及び育児短時間勤務の取得者数 (平成23年度) (単位:人)

区分	性別等	育児休業 取得者数	部分休業 取得者数	育児短時間 勤務取得 者数	平成23年度中に新たに育児休業が取得可能となった職員				育休取得率
					育児休業 対象者数	うち育児休業 取得者数	うち部分休業 取得者数	うち育児短 時間勤務取 得者数	
知事部局	男性職員	1	1		105				0.0%
	女性職員	29	5	5	30	29			96.7%
	計	30	6	5	135	29	0	0	21.5%
教育委員会	男性職員	2			188	2			1.1%
	女性職員	134	3	2	139	134	3	2	96.4%
	計	136	3	2	327	136	3	2	41.6%
警察本部	男性職員				146				0.0%
	女性職員	18			15	12			80.0%
	計	18	0	0	161	12	0	0	7.5%

(注) 「育児休業取得者数」「部分休業取得者数」「育児短時間勤務取得者数」の欄の上段には平成23年度に新たに育児休業(部分休業又は育児短時間勤務)を取得した者、下段には育児休業(部分休業又は育児短時間勤務)の期間が平成22年度から平成23年度にかけて引き続いている者の数を記入。

(2) 育児短時間勤務の勤務形態 (23年度中に新たに育児短時間勤務を取得した職員) (単位:人)

区分	性別等	勤務形態					合計
		1日3時間55分	1日4時間55分	週3日	週2日半	その他	
知事部局	男性職員						0
	女性職員	2	3				5
	計	2	3	0	0	0	5
教育委員会	男性職員						0
	女性職員		2				2
	計	0	2	0	0	0	2
警察本部	男性職員						0
	女性職員						0
	計	0	0	0	0	0	0

(3) 修学部分休業の実施状況 (平成23年度)

区分	実施状況	取得者数
知事部局	○	0
教育委員会	○	0
警察本部	○	0

(4) 高齢者部分休業の実施状況 (平成23年度)

区分	実施状況	取得者数
知事部局	○	0
教育委員会	○	0
警察本部	○	0

(5) 自己啓発等休業の実施状況 (平成23年度)

区分	実施状況	取得者数
知事部局	○	0
教育委員会	○	0
警察本部	○	0



## 6 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

### (1)研修状況 (平成23年度)

研修名等		対象者	回数等	日数(日)	修了者数(人)	備考
一般研修	新規採用職員研修(事前・前期・中期・後期)	知事部局職員(新規採用職員)	2	9	88	
	中堅職員研修	知事部局職員(採用後5年目の職員)	2	2	60	
	新任副主査研修	知事部局職員(新任副主査職員)	3	2	94	
	新任主査研修	知事部局職員(新任係長級職員)	3	2	87	1ヶ月間の民間企業体験研修
	課長補佐研修Ⅰ	知事部局職員(新任課長補佐級職員)	3	2	94	
	課長補佐研修Ⅱ	知事部局職員(新任の本庁班長及び地方機関の課長職員等)	2	2	69	
	新任管理者研修	知事部局職員(新任の課長級職員)	2	2	69	
	新任所属長研修	知事部局職員(新任の所属長職員)	2	2	51	
	教育委員会事務局等職員研修	教育委員会職員(事務局等新規採用職員)	1	2	47	
	県教育庁等職員人権研修	教育委員会職員(事務局等職員)	1	2	503	
	初任者研修	教育委員会職員(新規採用教員)	1	16	234	
	初任者研修(宿泊研修)	教育委員会職員(新規採用教員)	1	2	234	
	初任者研修(2年次研修)(22年度継続)	教育委員会職員(新規採用22年度継続者)	1	4	209	
	10年経験者研修	教育委員会職員(10年経験者教員)	1	6	78	
	10年経験者研修(22年度継続)	教育委員会職員(10年経験22年度継続者)	1	2	66	
	新規採用養護教員研修	教育委員会職員(新規採用養護教員)	1	10	3	
	養護教員10年経験者研修	教育委員会職員(10年経験者養護教員)	1	5	1	
	新規採用栄養教諭研修	教育委員会職員(新規採用栄養教諭)	1	6	3	
	新規採用栄養職員研修	教育委員会職員(新規採用栄養職員)	1	10	1	
	栄養職員経験者研修	教育委員会職員(栄養職員経験者)	1	5	4	
	新規採用学校事務職員研修	教育委員会職員(新規採用学校事務職員)	1	3	25	
	新人事務長研修	教育委員会職員(H23に事務長発令された学校事務職員)	1	1	6	
	新任校長研修	教育委員会職員(管理職(新任校長))	1	2	61	
	新任教頭研修	教育委員会職員(管理職(新任教頭))	1	2	67	
	新任教務主任研修	教育委員会職員(新任教務主任)	1	1	79	
	特別支援学級担当教員研修	教育委員会職員(初めて特別支援学級を担当した教員)	1	4	70	
	特別支援教育コーディネーター研修	教育委員会職員(特別支援教育コーディネーターで、各市町村教育委員会教育長(県立中学校については学校長)が推薦する小・中学校教員)	1	1	50	
	初任科	警察本部職員(新採警察官A)	1	182	41	
	初任科	警察本部職員(新採警察官A)	1	180	20	
	初任科	警察本部職員(新採警察官B)	1	304	32	
一般職員初任科	警察本部職員(新採一般職員)	1	28	9		
初任補修科	警察本部職員(採用時教養警察官A)	1	61	8		
初任補修科	警察本部職員(採用時教養警察官A)	1	60	41		
初任補修科	警察本部職員(採用時教養警察官B)	1	82	32		
幹部研修	警察本部職員(警部以上)	5	1	720	130名、130名、110名、100名、250名	
人権研修	警察本部職員(警部補以下)	2	1	230	1回115名	
特別研修	住民との対話能力向上研修	知事部局職員(係長級昇任前の職員等・一部警察職員を含む)	3	2	80	
	プレゼンテーション研修		3	2	72	
	政策形成能力開発研修		3	2	109	
	財務諸表の見方研修		2	2	50	
	統計分析講座		2	2	50	
	メディア対応研修		2	2	31	
	政策法務研修		2	2	34	
	行政争訟講座		2	2	29	
	民法講座		2	2	51	
	職場研修委員研修		知事部局職員(新たに職場研修委員に任命された職員)	2	1	63
	育休任期付職員等研修	知事部局職員(育児休業代替職員)	2	2	17	
	育児休業者職場復帰サポート研修	知事部局職員(育児休業から復帰した職員)	1	1	13	
	行政職への任用替え研修	知事部局職員(現業職から行政職への任用替えに伴う採用選考に合格した職員)	1	2	3	
	地域づくり研修	知事部局職員(全職員)	1	1	8	
	政策形成能力研修	知事部局職員(採用後10年目程度の職員)	2	3	10	関西広域連合主催研修
セミナー	職場研修指導者セミナー	知事部局職員(職場研修委員)	4	1	232	
	人権・同和特別研修指導責任者研修会	知事部局職員(職場研修委員、振興局人権担当職員等)	1	1	140	
	採用後3年目までの職員を対象とした同和研修	知事部局職員(採用後3年目までの職員)	6	1	232	
	警察政策フォーラム	警察本部職員	2	2	4	1回2名
	夏季教養講座	警察本部職員	1	1	5	

研修名等		対象者	回数等	日数(日)	修了者数(人)	備考	
専門研修	キャリア教育推進のための研修①	教育委員会職員(教員)	1	1	98		
	キャリア教育推進のための研修②		1	1	78		
	学校マネジメント実践研究Ⅰ		1	8	6		
	学校マネジメント実践研究ⅡA		1	3	1		
	学校マネジメント実践研究ⅡB		1	3	3		
	理科実験観察実習ⅠA		1	4	4		
	理科実験観察実習ⅡA		1	4	2		
	理科実験観察実習ⅠB		1	4	2		
	文化遺産総合研究		1	4	1		
	環境教育総合研究		1	4	3		
	小学校国語科教育研修講座(紀北地方)		1	1	16		
	小学校国語科教育研修講座(紀中地方)		1	1	15		
	小学校国語科教育研修講座(西牟婁地方)		1	1	7		
	小学校国語科教育研修講座(東牟婁地方)		1	1	10		
	中学校国語科教育研修講座①A		1	1	30		
	中学校国語科教育研修講座①B		1	1	34		
	中学校国語科教育研修講座②A		1	1	34		
	中学校国語科教育研修講座②B		1	1	33		
	中学校国語科教育研修講座③C		1	1	12		
	中学校国語科教育研修講座③D		1	1	15		
	中学校国語科教育研修講座③E		1	1	23		
	中学校国語科教育研修講座③F		1	1	12		
	小学校社会科教育研修講座		1	1	4		
	高等学校地理歴史科教育研修講座		1	1	26		
	小学校算数科教育研修講座		1	1	15		
	中学校・高等学校数学科教育研修講座		1	1	37		
	小学校理科教育研修講座		1	1	14		
	中学校理科教育研修講座		1	1	19		
	自然観察研修講座		1	1	21		
	電子顕微鏡活用研修講座		1	1	5		
	四季の星座研修講座		1	1	24		
	小学校生活科教育研修講座		1	1	6		
	中学校技術・家庭科教育研修講座(家庭分野)		1	1	3		
	中学校・高等学校英語科教育研修講座		1	1	24		
	ALTとの効果的なTTのための英語科教育研修講座①		1	1	25		
	ALTとの効果的なTTのための英語科教育研修講座②		1	1	24		
	小学校外国語活動研修講座(紀北地方)		1	1	17		
	小学校外国語活動研修講座(紀中地方)		1	1	14		
	小学校外国語活動研修講座(西牟婁地方)		1	1	9		
	小学校外国語活動研修講座(東牟婁地方)		1	1	4		
	高等学校産業教育研修講座		1	1	43		
	総合的な学習の時間研修講座		1	1	27		
	道徳教育研修講座		1	1	40		
	特別支援教育基礎研修講座①		1	1	16		
	特別支援教育基礎研修講座②		1	1	49		
	特別支援教育スキルアップ研修講座①		教育委員会職員	1	1	25	
	特別支援教育スキルアップ研修講座②		(特別支援学級又は通級指導教室担当者)	1	1	31	
	特別支援教育スキルアップ研修講座③			1	1	23	
	通常の学級で進める特別支援教育研修講座①ー理解と支援ー		教育委員会職員(教員)	1	1	50	
	通常の学級で進める特別支援教育研修講座②ー連携の在り方ー			1	1	32	
特別支援教育相談研修講座(基礎編)	教育委員会職員(巡回相談を担当する教員)		1	1	11		
管理職のための教育相談研修講座	教育委員会職員(教員)		1	1	23		
教育相談研修講座①ー教育相談基礎理論ー			1	1	33		
教育相談研修講座②ーカウンセリングワークショップ1ー			1	1	38		
教育相談研修講座③ーカウンセリングワークショップ2ー			1	1	38		
教育相談研修講座④ーこころについて考えるー			1	1	91		
教育相談研修講座⑤ー事例研究ー			1	1	46		
教育相談研修講座⑥ー事例研究ー			1	1	26		
教育相談研修講座⑦ーカウンセリングの聴き方ー			1	1	38		
校長のためのOJT研修講座(小・中学校 紀北の部)			教育委員会職員(校長)	1	1	46	
校長のためのOJT研修講座(小・中学校 紀南の部)				1	1	49	
校長のためのOJT研修講座(県立学校の部)	1			1	34		
教師力アップ研修講座①ー学校力を高めるー	教育委員会職員(教員)		1	1	21		
教師力アップ研修講座②ー市民性を育む学校教育ー			1	1	27		
人間関係づくりを重視した生徒指導研修講座①(理論編)			1	1	40		

研修名等		対象者	回数等	日数(日)	修了者数(人)	備考	
専門研修	人間関係づくりを重視した生徒指導研修講座②(事例研究編)	教育委員会職員(教員)	1	1	15		
	グループアプローチ研修講座①-集団をグループ活動で育てる-		1	1	36		
	グループアプローチ研修講座②-グループアプローチの実際-(紀北地方)		1	1	18		
	グループアプローチ研修講座②-グループアプローチの実際-(紀中地方)		1	1	35		
	グループアプローチ研修講座②-グループアプローチの実際-(西牟婁地方)		1	1	12		
	グループアプローチ研修講座②-グループアプローチの実際-(東牟婁地方)		1	1	18		
	人権教育研修講座		1	1	9		
	生きる力を高める食育研修講座		1	1	26		
	ESD(持続発展教育)研修講座		1	1	21		
	わかやま再発見研修講座		1	1	44		
	複式教育研修講座		1	1	8		
	共育コミュニティ研修講座①~③		1	3	151		
	活力ある学校図書館をめざす司書教諭・学校司書等研修講座		教育委員会職員(司書教諭・学校司書・学校図書館に係る教職員)	1	1	48	
	公立学校事務職員研修講座		教育委員会職員(主任・事務主任及び主査である学校事務職員)	1	1	26	
	オンラインで学ぶ個人情報保護研修講座	教育委員会職員(教員)	1	1	3		
	オンラインで学ぶ著作権保護研修講座		1	1	3		
	警部補任用科	警察本部職員(昇任予定の巡査部長)	1	12	11		
	巡査部長任用科	警察本部職員(昇任予定の巡査長)	1	12	5		
	捜査及び鑑識専務員任用科	警察本部職員(刑事警察任用予定者)	1	24	15		
	交通任用科	警察本部職員(交通警察任用予定者)	1	12	17		
	警備任用科	警察本部職員(警備警察任用予定者)	1	12	18		
	術科指導者専科	警察本部職員(警部補以下の警察官)	1	5	16		
	警護専科		1	5	19		
	特殊犯捜査専科		1	10	20		
	緊急自動車運転技能者専科(二輪)		1	17	10		
	組織犯罪捜査専科		1	5	20		
	検視実務専科		1	5	14		
	生活安全専科		1	12	14		
	職務質問①専科		1	12	8		
	職務質問②専科		1	12	6		
	通信指令専科		1	5	16		
	取調べ技能専科		1	5	25		
	緊急四輪専科		1	15	5		
	刑事実務専科		1	5	20		
	警備実務専科		1	5	10		
	総合実務専科		3	3	64		
	鑑識任用専科		1	9	20		
	看守任用専科		1	10	27		
	サイバー犯罪捜査専科		1	5	13		
	警察相談・被害者支援専科		1	5	2		
	情報管理専科		1	5	5		
	警察安全相談・被害者対策専科		1	5	2		
情報管理専科	警察本部職員(係長以下の職員)		1	5	9		
総合実務専科	1		3	15			
情報教育	事例に学ぶ情報モラル教育研修講座		教育委員会職員(教員)	1	1	13	
	初心者のためのICT活用授業研修講座			1	1	15	
教育相談	教育相談主事等派遣事業等に係る研修		教育委員会職員(教員)、児童生徒等	291		12,023	随時要請に応じて
長期研修	長期研修員研修		教育委員会職員(選考された職員)	1		11	一年間
	教員の長期社会体験研修			1		8	一年間
合計					20,272		

## (2)勤務成績の評定状況

(平成23年度)

区分	勤務成績の評定の概要																																			
知事部局	被評価者及び評価者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部長級職員</td> <td>本庁の部長等</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>次長級職員(本庁・出先)</td> <td>本庁の部長等</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>“(振興局)</td> <td>振興局長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>課長級 所属長職員(本庁・出先)</td> <td>本庁の局長等</td> <td>本庁の部長等</td> </tr> <tr> <td>“(振興局)</td> <td>振興局長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>課長級職員(本庁・出先)※所属長職員を除く</td> <td>所属長</td> <td>本庁の局長等</td> </tr> <tr> <td>“(振興局)※所属長職員を除く</td> <td>振興局の部長等</td> <td>振興局長</td> </tr> <tr> <td>課長補佐級以下及び現業職員(本庁)</td> <td>副課長等</td> <td>所属長</td> </tr> <tr> <td>“(出先)</td> <td>次長等 ※管理職手当受給者</td> <td>“</td> </tr> <tr> <td>“(振興局)</td> <td>副部長等</td> <td>“</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 課長級職員には、管理職手当を受給している課長補佐級職員を含む。</p>		被評価者	第1次評価者	第2次評価者	部長級職員	本庁の部長等	—	次長級職員(本庁・出先)	本庁の部長等	—	“(振興局)	振興局長	—	課長級 所属長職員(本庁・出先)	本庁の局長等	本庁の部長等	“(振興局)	振興局長	—	課長級職員(本庁・出先)※所属長職員を除く	所属長	本庁の局長等	“(振興局)※所属長職員を除く	振興局の部長等	振興局長	課長補佐級以下及び現業職員(本庁)	副課長等	所属長	“(出先)	次長等 ※管理職手当受給者	“	“(振興局)	副部長等	“
	被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																	
	部長級職員	本庁の部長等	—																																	
	次長級職員(本庁・出先)	本庁の部長等	—																																	
	“(振興局)	振興局長	—																																	
	課長級 所属長職員(本庁・出先)	本庁の局長等	本庁の部長等																																	
	“(振興局)	振興局長	—																																	
	課長級職員(本庁・出先)※所属長職員を除く	所属長	本庁の局長等																																	
	“(振興局)※所属長職員を除く	振興局の部長等	振興局長																																	
	課長補佐級以下及び現業職員(本庁)	副課長等	所属長																																	
“(出先)	次長等 ※管理職手当受給者	“																																		
“(振興局)	副部長等	“																																		
評価の構成	<p>① 職務行動評価 被評価者の評価期間中の職務行動を、職務遂行に必要とされる能力を表象する職務行動に着目した基準により評価（「能力」を評価）</p> <p>② 役割達成度評価 被評価者の担当する業務内容に即して、その課題、目標、進め方等を明確にした上で、評価期間における業務の実施結果を評価（「実績」を評価）</p>																																			
評価要素	<p>① 職務行動評価</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>部次長級</td> <td>仕事の成果、基本方針の提示、適時・適切な判断、合意形成、責任ある業務遂行、組織統率</td> </tr> <tr> <td>課長級</td> <td>仕事の成果、企画立案、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方、部下の育成・活用</td> </tr> <tr> <td>課長補佐級</td> <td>仕事の成果、課題対応、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方、部下の育成・活用</td> </tr> <tr> <td>係長級</td> <td>仕事の成果、課題対応、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方</td> </tr> <tr> <td>一般職員</td> <td>仕事の成果、情報整理・知識、コミュニケーション、意欲、仕事の進め方</td> </tr> <tr> <td>現業職員</td> <td>仕事の成果、情報整理・知識、コミュニケーション、意欲、仕事の進め方</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 役割達成度評価</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>部次長級</td> <td rowspan="6">勤務実績(目標に対する達成度)</td> </tr> <tr> <td>課長級</td> </tr> <tr> <td>課長補佐級</td> </tr> <tr> <td>係長級</td> </tr> <tr> <td>一般職員</td> </tr> <tr> <td>現業職員</td> </tr> </tbody> </table>		部次長級	仕事の成果、基本方針の提示、適時・適切な判断、合意形成、責任ある業務遂行、組織統率	課長級	仕事の成果、企画立案、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方、部下の育成・活用	課長補佐級	仕事の成果、課題対応、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方、部下の育成・活用	係長級	仕事の成果、課題対応、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方	一般職員	仕事の成果、情報整理・知識、コミュニケーション、意欲、仕事の進め方	現業職員	仕事の成果、情報整理・知識、コミュニケーション、意欲、仕事の進め方	部次長級	勤務実績(目標に対する達成度)	課長級	課長補佐級	係長級	一般職員	現業職員															
部次長級	仕事の成果、基本方針の提示、適時・適切な判断、合意形成、責任ある業務遂行、組織統率																																			
課長級	仕事の成果、企画立案、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方、部下の育成・活用																																			
課長補佐級	仕事の成果、課題対応、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方、部下の育成・活用																																			
係長級	仕事の成果、課題対応、コミュニケーション、責任感、仕事の進め方																																			
一般職員	仕事の成果、情報整理・知識、コミュニケーション、意欲、仕事の進め方																																			
現業職員	仕事の成果、情報整理・知識、コミュニケーション、意欲、仕事の進め方																																			
部次長級	勤務実績(目標に対する達成度)																																			
課長級																																				
課長補佐級																																				
係長級																																				
一般職員																																				
現業職員																																				
評価方法	<p>① 職務行動評価 5段階による絶対評価</p> <p>② 役割達成度評価 点数による絶対評価</p>																																			
自己評価の有無	<p>① 職務行動評価 有り</p> <p>② 役割達成度評価 “</p>																																			
評価基準日	<p>① 職務行動評価 11月1日</p> <p>② 役割達成度評価 2月1日</p>																																			
評価対象期間	<p>① 職務行動評価 4月1日から翌3月31日まで</p> <p>② 役割達成度評価 “</p>																																			
評定結果の活用方法	<p>① 職務行動評価 人材育成、任用・人事配置、分限及び給与の決定のための資料</p> <p>② 役割達成度評価 人材育成及び給与の決定のための資料</p>																																			

区分	勤務成績の評定の概要																																																
教育委員会	被評価者及び評価者	(1)教育庁																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>局長、参事</td> <td>教育長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>課長</td> <td>局長</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>室長、副課長、主幹(課長級)</td> <td>課長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>上記以外の職員</td> <td>副課長、室長</td> <td>課長</td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	局長、参事	教育長	—	課長	局長	教育長	室長、副課長、主幹(課長級)	課長	局長	上記以外の職員	副課長、室長	課長	<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>局長、参事</td> <td>教育長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>課長</td> <td>局長</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>室長、副課長、主幹(課長級)</td> <td>課長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>上記以外の職員</td> <td>副課長、室長</td> <td>課長</td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	局長、参事	教育長	—	課長	局長	教育長	室長、副課長、主幹(課長級)	課長	局長	上記以外の職員	副課長、室長	課長																
		被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																													
		局長、参事	教育長	—																																													
		課長	局長	教育長																																													
室長、副課長、主幹(課長級)	課長	局長																																															
上記以外の職員	副課長、室長	課長																																															
被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																															
局長、参事	教育長	—																																															
課長	局長	教育長																																															
室長、副課長、主幹(課長級)	課長	局長																																															
上記以外の職員	副課長、室長	課長																																															
(2)教育支援事務所																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所長</td> <td>教育総務局長</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>上記以外の職員</td> <td>所長</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	所長	教育総務局長	教育長	上記以外の職員	所長	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所長</td> <td>教育総務局長</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>上記以外の職員</td> <td>所長</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	所長	教育総務局長	教育長	上記以外の職員	所長	—																														
被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																															
所長	教育総務局長	教育長																																															
上記以外の職員	所長	—																																															
被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																															
所長	教育総務局長	教育長																																															
上記以外の職員	所長	—																																															
(3)学校以外の教育機関																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者※2</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所長・副館長</td> <td>局長</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>副館長、文化情報センター長、紀南図書館長、教育企画員、主幹、専門員(課長級)</td> <td>所長・副館長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>上記以外の職員</td> <td>副所長</td> <td>所長</td> </tr> <tr> <td>教育センター学びの丘の職員</td> <td>(文化情報センター長)</td> <td>副館長</td> </tr> <tr> <td>図書館の職員</td> <td>紀南図書館長</td> <td>副館長</td> </tr> <tr> <td>紀南図書館の職員</td> <td>副館長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>近代美術館・博物館・紀伊風土記の丘・自然博物館の職員</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者※2	第2次評価者	所長・副館長	局長	教育長	副館長、文化情報センター長、紀南図書館長、教育企画員、主幹、専門員(課長級)	所長・副館長	局長	上記以外の職員	副所長	所長	教育センター学びの丘の職員	(文化情報センター長)	副館長	図書館の職員	紀南図書館長	副館長	紀南図書館の職員	副館長	—	近代美術館・博物館・紀伊風土記の丘・自然博物館の職員			<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所長・副館長</td> <td>局長</td> <td>教育長</td> </tr> <tr> <td>副館長、文化情報センター長、紀南図書館長、教育企画員、主幹、専門員(課長級)</td> <td>所長・副館長</td> <td>局長</td> </tr> <tr> <td>上記以外の職員</td> <td>副所長</td> <td>所長</td> </tr> <tr> <td>教育センター学びの丘の職員</td> <td>(文化情報センター長)</td> <td>副館長</td> </tr> <tr> <td>図書館の職員</td> <td>紀南図書館長</td> <td>副館長</td> </tr> <tr> <td>紀南図書館の職員</td> <td>副館長</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>近代美術館・博物館・紀伊風土記の丘・自然博物館の職員</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	所長・副館長	局長	教育長	副館長、文化情報センター長、紀南図書館長、教育企画員、主幹、専門員(課長級)	所長・副館長	局長	上記以外の職員	副所長	所長	教育センター学びの丘の職員	(文化情報センター長)	副館長	図書館の職員	紀南図書館長	副館長	紀南図書館の職員	副館長	—	近代美術館・博物館・紀伊風土記の丘・自然博物館の職員		
被評価者	第1次評価者※2	第2次評価者																																															
所長・副館長	局長	教育長																																															
副館長、文化情報センター長、紀南図書館長、教育企画員、主幹、専門員(課長級)	所長・副館長	局長																																															
上記以外の職員	副所長	所長																																															
教育センター学びの丘の職員	(文化情報センター長)	副館長																																															
図書館の職員	紀南図書館長	副館長																																															
紀南図書館の職員	副館長	—																																															
近代美術館・博物館・紀伊風土記の丘・自然博物館の職員																																																	
被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																															
所長・副館長	局長	教育長																																															
副館長、文化情報センター長、紀南図書館長、教育企画員、主幹、専門員(課長級)	所長・副館長	局長																																															
上記以外の職員	副所長	所長																																															
教育センター学びの丘の職員	(文化情報センター長)	副館長																																															
図書館の職員	紀南図書館長	副館長																																															
紀南図書館の職員	副館長	—																																															
近代美術館・博物館・紀伊風土記の丘・自然博物館の職員																																																	
(4)派遣職員																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財センターの職員</td> <td>事務局次長</td> <td>文化遺産課長</td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	文化財センターの職員	事務局次長	文化遺産課長	<table border="1"> <thead> <tr> <th>被評価者</th> <th>第1次評価者</th> <th>第2次評価者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財センターの職員</td> <td>事務局次長</td> <td>文化遺産課長</td> </tr> </tbody> </table>	被評価者	第1次評価者	第2次評価者	文化財センターの職員	事務局次長	文化遺産課長																																				
被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																															
文化財センターの職員	事務局次長	文化遺産課長																																															
被評価者	第1次評価者	第2次評価者																																															
文化財センターの職員	事務局次長	文化遺産課長																																															
評価の構成	<p>① 勤務成績評価 職務遂行上の能力、意欲、成績を評価するものであり、自己評価を行うとともに、評価者が被評価者の勤務成績を評価</p> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 職員が自ら職務上の目標を設定し、その達成状況を自己評価するとともに、第1次評価者及び第2次評価者が被評価者の業績を評価</p>																																																
評価要素	<p>① 勤務成績評価</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>一般職員</td> <td>企画立案、コミュニケーション、実行力、責任感、倫理観</td> </tr> <tr> <td>現業職員</td> <td>情報整理・知識、コミュニケーション、実行力、責任感、倫理観</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 職員が自ら設定した職務上の目標の評価期間における業務の実施結果(「実績」)を評価する。</p>			一般職員	企画立案、コミュニケーション、実行力、責任感、倫理観	現業職員	情報整理・知識、コミュニケーション、実行力、責任感、倫理観																																										
一般職員	企画立案、コミュニケーション、実行力、責任感、倫理観																																																
現業職員	情報整理・知識、コミュニケーション、実行力、責任感、倫理観																																																
評価方法	<p>① 勤務成績評価 5段階による絶対評価</p> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 //</p>																																																
自己評価の有無	<p>① 勤務成績評価 有り</p> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 //</p>																																																
評価基準日	<p>① 勤務成績評価 2月1日</p> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 //</p>																																																
評価期間	<p>① 勤務成績評価 4月1日から翌3月31日まで</p> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 //</p>																																																
評価結果の活用方法	<p>① 勤務成績評価 職員の意欲の向上や組織の活性化並びに人材育成及び適正配置のための資料</p> <p>② 個人目標申告に基づく実績評価 人材育成及び給与決定の資料</p>																																																

(平成23年度)

区分	勤務成績の評定の概要		
教育委員会 (学校人事課)	被評価者及び評価者	被評価者 校長 その他の職員	第1次評価者 教育長 校長 調整者 教育長
	評価の構成	職務の状況及び勤務の状況等に基づき評定	
	評価要素	校長:教育計画と運営、職員の指導と管理、施設設備の管理、事務の掌握、地域社会との連携 その他の職員:学級経営、学習指導、生活指導、研修、校務の処理等	
	評価方法	3段階による絶対評価	
	自己評価の有無	無し	
	評価基準日	原則として9月1日	
	評価期間	前年9月1日～8月31日	
	評定結果の活用方法	勤務成績の評定を行うことにより、その結果に応じた措置を講じる。	

区分	勤務成績の評定の概要																				
警察本部	被評価者及び評価者	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="572 277 858 322">被評定者</th> <th data-bbox="858 277 1062 322">第1次評定者</th> <th data-bbox="1062 277 1267 322">第2次評定者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="572 322 858 367">参事官・所属長</td> <td data-bbox="858 322 1062 367">所管部長</td> <td data-bbox="1062 322 1267 367">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 367 858 412">次席・管理官・副署長等</td> <td data-bbox="858 367 1062 412">所属長</td> <td data-bbox="1062 367 1267 412">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 412 858 456">調査官・課長補佐・署課長等</td> <td data-bbox="858 412 1062 456">管理官等</td> <td data-bbox="1062 412 1267 456">次席・副署長等</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 456 858 501">係長・主任・係員</td> <td data-bbox="858 456 1062 501">担当補佐・署課長等</td> <td data-bbox="1062 456 1267 501">管理官等</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 501 858 546">初任科生</td> <td data-bbox="858 501 1062 546">担当教官</td> <td data-bbox="1062 501 1267 546">校長補佐</td> </tr> </tbody> </table>		被評定者	第1次評定者	第2次評定者	参事官・所属長	所管部長	—	次席・管理官・副署長等	所属長	—	調査官・課長補佐・署課長等	管理官等	次席・副署長等	係長・主任・係員	担当補佐・署課長等	管理官等	初任科生	担当教官	校長補佐
	被評定者	第1次評定者	第2次評定者																		
	参事官・所属長	所管部長	—																		
	次席・管理官・副署長等	所属長	—																		
	調査官・課長補佐・署課長等	管理官等	次席・副署長等																		
	係長・主任・係員	担当補佐・署課長等	管理官等																		
	初任科生	担当教官	校長補佐																		
	評価の構成	<p>【初任科生以外の警察官・警察職員】</p> <p>① 勤務実績評定 被評定者の勤務実績について、基礎的能力、仕事の姿勢、業務処理能力に着眼して評定</p> <p>② 人物評定 被評定者の人物面について、社会面、活動面、精神面等に着眼して評定</p> <p>【初任科生】</p> <p>① 学術評価 被評定者の学術について、学科、術科成績に基づき評定</p> <p>② 操行評価 被評定者の操行について、生活面、功労面等に着眼して評定</p>																			
評価要素	<p>【初任科生以外の警察官・警察職員】</p> <p>① 勤務実績評定 実行力、折衝力、責任感、積極性、正確性、迅速性等</p> <p>② 人物評定 誠実・実直、信望、忍耐力、は気、ち密、向上心等</p> <p>【初任科生】</p> <p>① 学術評価 学科、術科各科目の成績</p> <p>② 操行評価 責任感、積極性、規律等</p>																				
評価方法	<p>【初任科生以外の警察官・警察職員】 勤務実績評定、人物評定を総合して5段階による絶対評価</p> <p>【初任科生】 学術評価、操行評価を総合して5段階による絶対評価</p>																				
自己評価の有無	有り																				
評価基準日	年間評定 12月31日 半期評定 6月1日、12月1日																				
評価期間	年間評定 1月1日から12月31日まで 半期評定 12月2日から翌年6月1日まで、6月2日から12月1日まで 特別評定(初任科生) 初任教養期間中																				
評定結果の活用方法	昇任、降任及び転任等の人事異動 表彰、懲戒及び分限 昇給及び勤勉手当 指導教養及び監督																				

## 7 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1)公務災害・通勤災害の認定件数

(平成23年度)

区分		件数	区分		件数	区分		件数
公務災害		117	通勤災害		15	合計		132
内訳	知事部局	17	内訳	知事部局	3	内訳	知事部局	20
	教育委員会	28		教育委員会	3		教育委員会	31
	警察本部	72		警察本部	9		警察本部	81

(2)健康診断実施状況

(平成23年度)

健康診断名	受診対象者	受診者数		
		知事部局	教育委員会	警察本部
定期健康診断	全職員	3,742	3,004	2,467
雇入時健康診断	新規採用職員	83	6	100
電離放射線業務健康診断	放射線業務に従事する職員	20		5
農業業務健康診断	有機リン系農薬取扱業務に従事する職員	96		
有機溶剤等業務健康診断	有機溶剤等取扱業務に従事する職員	50		4
振動業務健康診断	振動工具取扱業務に従事する職員	63		
家畜疾病等取扱業務健康診断	動物の負傷・疾病等取扱業務に従事する職員	83		
VDT作業健康診断	VDT作業に従事する職員の内希望者	251		2,455
B型肝炎健康診断	血液取扱い業務に従事する職員の内希望者、県立学校養護教諭及び特別支援学校教職員	27	1,111	81
乗船業務健康診断	乗船業務に従事する職員	15		
深夜業務従事者健康診断	深夜業務に従事する職員	98		595
ホルムアルデヒド取扱業務健康診断	ホルムアルデヒド取扱業務に従事する職員	7		
海外派遣労働者健康診断	6ヶ月以上海外へ派遣される職員及び6ヶ月以上海外へ派遣され帰国した職員	0		
結核健診	医療関係者で結核患者と直接接する機会のある職員、県立学校全教職員	2	2,890	
特定化学物質等取扱業務健康診断	特定化学物質取扱業務に従事する職員	15		
介護業務健康診断	県立特別支援学校教職員のうち希望者			63
給食業務健康診断	県立学校寄宿舎調理員			17

(3)(財)和歌山県職員互助会・(財)和歌山県教育互助会・(財)和歌山県警察共助会の状況

(平成23年度)

	(財)和歌山県職員互助会	(財)和歌山県教育互助会	(財)和歌山県警察共助会
会員数	5,154 人	9,700 人	2,558 人
掛金	20,391 千円	432,644 千円	70,660 千円
掛金率	(給料) × 1/1000	(給料) × 1/100	(給料+扶養手当) × 7/1000
補助金	0 千円	0 千円	0 千円

(注) 1 この様式に定める「知事部局」は、議会議務局・人事委員会事務局・監査委員事務局・和歌山海区漁業調整委員会を含みます。

2 各互助会に対する補助金については、平成18年度から廃止しました。



## 8 その他知事が必要と認める事項

定年退職者・勸奨退職者の再就職者数

(平成23年度)

(単位:人)

区分 職種	平成22年度 退職者数 a	合 計 b	a の うち 再 就 職 者 数											再就職 しない者 n	不明で ある者 o
			県に再就職した者					県以外に再就職した者							
			再任用職員 (常時勤務) c	再任用職員 (短時間勤 務) d	非常勤職員 e	臨時職員 f	その他 g	他の地方公共団体 h	うち再任用職員 i	外郭団体 j	非営利団体 (外郭団体除く) k	営利企業 (外郭団体除く) l	自営業 m		
一般行政職	125	69	3	32	0	0	0	1	0	9	17	2	5	26	30
研 究 職	11	6	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	0
医 療 職	10	6	0	3	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4	0
技能労務職	21	15	1	12	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	2
教 育 職	377	13	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	364
警 察 職	64	52	1	7	23	0	0	3	0	0	13	5	0	0	12
合 計	608	161	18	58	23	0	0	5	0	10	32	8	7	39	408